



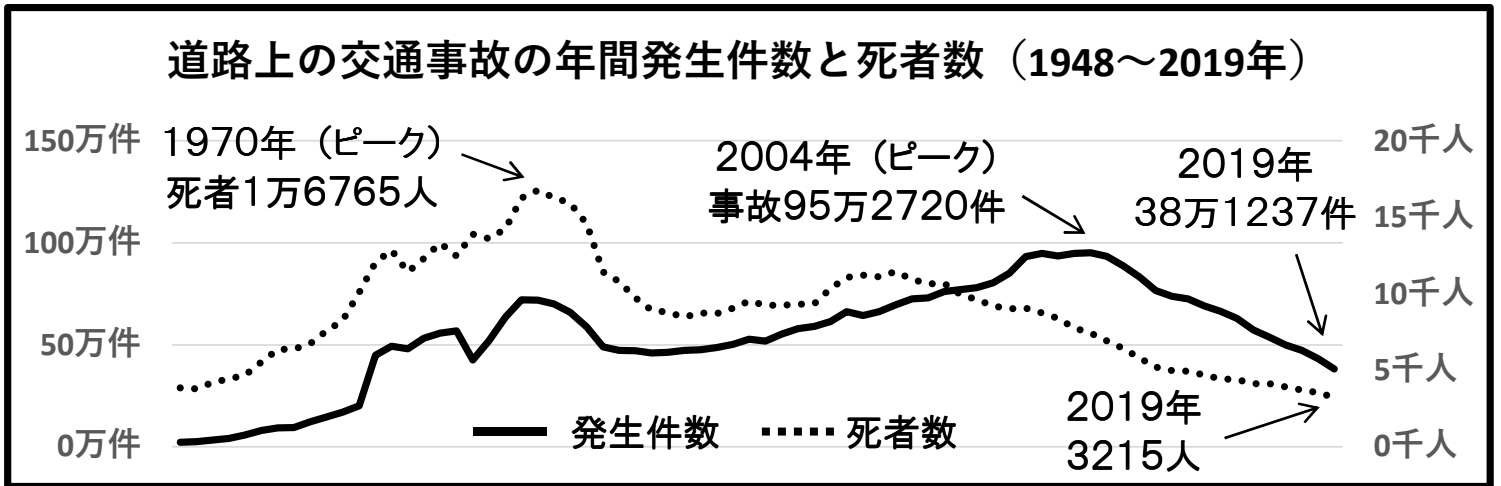
交通安全対策特別委員長に就任

1. 日本の交通事故の現状

今般、田中和徳は自民党の交通安全対策特別委員長に就任しました。私が責任者として取り組む、日本の事故の現状と安全対策を紹介します。

交通事故・鉄道事故ともに、発生件数と死傷者数は減少傾向。

一方、**歩行者・高齢者が交通事故死者の多くの割合**を占めています。



≪ 2018年 日本と各国の交通事故死者：状態別・世代別の比較 ≫

	歩行中	自動車乗用中	バイク乗用中	自転車乗用中	その他
日本	35.6%	21.5%	16.8%	15.3%	10.9%
アメリカ	16.1%	36.0%	13.9%	2.1%	31.9%
ドイツ	14.0%	43.5%	21.3%	13.6%	7.7%
スウェーデン	10.5%	55.9%	16.7%	7.1%	9.9%

	0～14歳	15～24歳	25～64歳	65歳以上
日本	1.8%	7.6%	33.2%	57.3%
アメリカ	3.1%	17.8%	60.5%	18.3%
ドイツ	2.4%	13.6%	51.8%	31.9%
スウェーデン	2.2%	12.0%	48.8%	37.0%

2. 交通安全に向けた施策

現下の交通安全環境の構築に向けて、下記の対策を進めています。
川崎市は歩行者や自転車の事故が多く、地元対策にも全力投球します。

道路交通の主な安全対策

歩行者と高齢者の安全確保に向けた取り組みが中心となる

- ① 自動車は幹線・高速道路、歩行者は生活道路という分担を進め、歩行者専用道路や歩行者・自転車レーンの整備などを通じて、歩車分離を推進し、歩行者が安全に歩行できる空間を確保する。
- ② 最先端の ICT 技術を活用した自動交通制御システムを構築し、渋滞の軽減、そして、安全で快適な自動車道路環境の整備を図る。
- ③ 交通安全教育と啓発活動を強化し、交通マナーの向上を実現する。
- ④ 自動車の安全基準を強化し、先進安全技術の開発を支援する。
メーカーが迅速・着実にリコールを行うよう、監視体制を強化する。
- ⑤ 違法・悪質運転の取り締まりと、負傷者の救急体制を充実させる。

鉄道関連の主な安全対策

鉄道事故の9割を占める人身事故と踏切事故対策を重視する

- ① 駅のホームと線路を遮るドアの設置、酔っ払い客への注意喚起など、駅のホームにおける転落事故や飛び込み事故防止対策を推進する。
- ② 道路の立体交差化事業などを通じて、踏切自体の撤去を促進する。
歩道橋や非常停止ボタンの充実など、踏切の安全対策を強化する。